



神聖かまってちゃんと岡本太郎

子どもの憤りとは自己弁護のない純粹な主張である。

「子供というものが目に見えるようにニヨキニヨキと大きくなっていくのは、彼らが内に抱いている《怒り》のせいではないか、と僕は考える」

これは中島らもの言葉である。

さらにこう続く。

大人のむら気や虫の居所のせいで理不尽な叱られ方をするたびに、子供は自分が子供であることに耐えられなくなる。水中でもがいて地を蹴るように彼らは大人へ向かって突進する。「今に見ている」という怒りや悲しみが彼らの背を日ごとに伸ばしていくのではないだろうか、という。

たしかに。常に自分に対して居心地の悪さを感じる時期がある。↓

たしかに。常に自分に対して居心地の悪さを感じる時期がある。そんなとき、何かを求める。とりあえずここではないどこかを探す。われわれの場合、それがロックだった。いや、ロックンロールしかなかったといったほうが正しい。

ほかの人間はなんだ、スポーツか、恋人か、車か、友達か、モンスターハンターか、アニメか、エヴァンゲリオンか、少年マンガか、少女マンガか、いずれにせよ、わたしは周りとはなじめなかった。



好きなものがあるというのは逆に孤独を深めることがある。↓

好きなものがあるというのは逆に孤独を深めることがある。たとえば、なんでもいい、エヴァンゲリオンってすごいよねと云えば、「アスカかわいいよね」なんて言われる始末である。ふっぎけんな！そーいうことじゃねえんだよ。

友人たちの様子を見ているとファッション感覚でアニメが好きというふうにおもえる。わたしはエヴァンゲリオンの登場人物に心重ねたりなんてしない。そんなことするくらいなら、地球に彗星が衝突して地球がコナゴナに碎けてしまうその日まで、わたしはその友人にたいしてNOを突きつけるだろう。

ゴメン、ゴメンね。スミス・・・もう泣かない約束だったよね。でも、キミコは誉めてくれるわよね。ね、パパ・・・

算数の単純計算のプリントを三〇分間やって↓

たとえば、わたしが小学生時代にこういう出来事があった。

算数の単純計算のプリントを三〇分間やって、そのあとみんなで答え合わせをする。この「みんなで」がポイントだ。席の順番通り、前の机から後ろの机へ後ろへ行ききったら次は前にいくという形で一人一問ずつ問題の答えを言っていく。たとえば「問八の答えは三七です」と大きな声で言い、答えがあっていればクラスのみんなが声を合わせて一斉に「いーですよー」という。

うん？うちの学校だけ？ つづけますよ。

で、これがわたしは嫌で嫌で仕方なかった。なにがそんなに嫌かといえ、みんなの前で声を出すということだ。

おとなしく目立つこともない人生を送ってきた人間にとって大勢の前に立つもしくは話をするというのは地獄である。地獄である。もういちど云おう、地獄である。もしもその場で石版をもっていたならその場でニーキックを行い、おそらく石版を真っ二つに叩き割っていただろう。それくらい嫌だ。↓

みんな算数の天才なのだろうか、ほぼ間違えない。間違えるのは、クラスで一番頭の悪い小宮くんと、その次に頭の悪い須磨くんと佐藤くんである。男子ばかりだ。

なんでみんな問題を間違えないのだろう。

先生は「間違えるのがふつうだよ」って云うけれど、だれも間違えないんじゃ、そんな言葉意味ないよといつも思っていた。全員で行う答え合わせの順番が迫ってくると、わたしは冷や汗を身体中にかく。赤えんぴつを持つ手がベトベトする。吐く息がなんだか熱い。隣の子に聞こえてるんじゃないかと思うくらい心臓がバクバクと音を立てている。視界がどんどんうねうねしてくる。

そんなとき、一度、わたしの三つまえでスムーズに行われていた答え合わせが止まった。みんなは問題用紙を見ているので下を向いていたけど、なんだなんだと頭を上げる。森さんで止まっていることが分かった。



先生は「森さんどうしたのー？」と声をかけるが返事がない。クラス中がざわざわする。森さんは泣いていた。声は出さないけど、涙をぽつぽつと机に落としていた。わたしにはわかった、彼女の苦しみが。森さんはおとなしい。わたしと似ていた（オタク系のわたしとちがって彼女のほうがオタクっぽくなくまともだったが）。↓

先生は、みんなの前で答え言うくらいそんな泣くほどのことじゃないよ？だいじょうぶだよ、とフォローだかなんだかしていた。わたしは森さんの気持ちが痛いほどわかっていた。そういうことじゃないんだよ、先生！

わたしたちひ弱な人間にとってみれば、↓

わたしたちひ弱な人間にとってみれば、ほんとうに声が詰まる
というか、声が出ないのである。

緊張しすぎて。人によっては涙を流すことや問題を答えないこ
との方が恥ずかしいかもしれないが、わたしたちにとっては涙を
流してしまうくらい辛いのだ。それをかわいそうだね、おろかし
いねと上から目線でいえる人間なら、この気持ちは一生分からな
いだろう。↓

あ、神聖かまってちゃんのこと全然書いて
ない！



あ、神聖かまってちゃんのこと全然書いてない！

中島らもは、子供は不条理に大人に動かされることによって、子供は大人になろうと強くりたいと思うという。おそらくその切迫感は、希望というより、悲願のようなものだろう。

少年たちはそうやって、怒りを一種のホルモンに変えて成長していく。

大人よりも子供のほうがダイナミズムを感じるのはそのせいだろう。



岡本太郎はエッセイのなかでこんな詩を紹介している。



おれ

もう先生きらいじゃ

おれ

きょう めだまがとびでるぐらい

はらがたつたぞ

おれ

となりのこに

しんせつにおしえてやっていたんやぞ

おれ

よそみなんかしていなかったぞ

先生でも 手をついてあやまれ

「しんじちゃんかんにんしてください」

とってあやまれ

これは、神戸市東灘小学校二年生のおおつかしんじ君の書いたものだ。（灰谷健次郎著『せんせいけらいになれ』から）

純粹な怒りを感じる。というか、そもそも怒りは純粹である。未熟だが、男らしい誇り。誰でもが子供のとき経験した、「不当」への憤りだ。

岡本太郎はこの詩の良さを「憎しみをふくんでいないからだ」と書いている。さらにこう続いている。「憎しみは多くの場合、自己弁護である。この子は弁解しているのではない。激しい主張なのだ」とある。

わたしはこれに神聖かまってちゃんが重なった。

彼らの「ねこラジ」の一節にこうある。

↓

彼らの「ねこラジ」の一節にこうある。

《 見えない翼はいらねえ

ガキをなめてんじやねえぞてめえ

熱い魂が今 肉球に宿る 》

子供の純粋な憤りだ。彼らが子供というわけではない。子供は不条理をくらわされることによって純粋に憤る。つまり、彼らは不条理によって負荷を受けている側にたっているということだ。

それはわれわれのようなマイノリティな人種も入るし、もちろん不条理を受けているのは子供だってそうだから、子供も入る。生きづらさを感じている人間の側に立って歌うバンドは多くいるが、子供までその視野に入れるバンドはそうそういない。

神聖かまってちゃんの誠実さは子供に似ている。案外、子供は正直な回答をする生き物ではない。ウソをつく。自分の理のためならウソをつくものだ。それは自分の純粋な願いからである。そして、子供は清濁をもっている。カオスを規律ある社会に降臨させているから子供は大人にはないダイナミズムがあるのだ。



そのダイナミズムを起こすには誠実さが必要である。↓

そのダイナミズムを起こすには誠実さが必要である。ウソはついでいい。音楽雑誌など若手ミュージシャンのインタビューを読んでいるとたまに「ウソはぜったいにつかないことに決めている」とみる。いや、それは違うだろうと神聖かまってちゃんを好きなわたしは思う。

↓

ウソはついていいのだ。いくらだつてついていい。の子はウソを付いてないかと考えると、なんだかけっこうわたしは騙されている気がするのだ。たとえば、サカナクションを痛快にディスっていたと想ったら、ライブイベントで共演したあと「サカナクションはすげーよかった」とか言い出している。

わたしたちとしてはサカナクションは仮想敵なので「え？」って感じなのだが、しかし不思議と心地が悪くない。そのとき、の子の配信で「急に、手のひら返してんじゃないよの子ふざけんな！」という感想をもったが、なぜか一週間くらい経つと清々しい気持ちになっていた。

の子はきっとリスナーの期待や願望を裏切っていくだろう。それをわれわれが許せるというのは↓

の子はきつとりスナーの期待や願望を裏切っていくだろう。それをわれわれが許せるというのはきつとの子は誠実だからだ。ウソはいくらだってついてかまわない。ただ、の子が自身にたいして誠実であるという軸が一本通っていることが大事だ。

もしもの子がそれから反すれば神聖かまってちゃんはすぐに見抜く。ハイエナ目で見抜くだろう。かまってちゃんファンは繊細だからだ。↓

子供にも似た純粋な憤りを感じさせるバンドは少ない。ワガママとはちがう。ウソをつかないことともちがう。肋骨を突き破って自分のいちばん柔らかい場所を何も隠さずに人々にみせる彼らの行為はたぶん、なにをやるよりもむつかしい。



勇気と誠実さが必要だからだ。子供のダイナミズムに似ている。

神聖かまってちゃんをみててワクワクするのはそのせいだ。たとえば、クロマニヨンズもそれに含まれるだろう。ロックンロールはそのような心持ちがなければいけない。↓

ロックンロールは偉ぶるでも弱ぶるでもない。ウソつきでも弱くても自分の誠実さ一本で体当たりする者にこそロックは発動する。

わたしの時代に神聖かまってちゃんがいてくれてよかった。←